

あつという間に師走になったという気がします。波乱にみちた2011年でしたが、来年はどんな年でしょうか。大掃除をしながら、いろいろな夢を描きたいものです。

お知らせ

- ・町並み研究会～和歌山 12月11日(日)～12日(月) 天神崎ほか
- ・新年会 2012年1月9日(月・祝) 草志舎
- ・歴史的建築物研究会 2012年1月21日(土) 西宮市・甲子園地区
- ・町並み研究会 2011年3月10日(土) 大阪市・住吉地区
- ・英国ナショナル・トラストの旅 2012年6月10日～19日 スコットランド

1月の予告

新年会

恒例の新年会をつぎのように開きます。

日時 **2012年1月9日(月・祝) 午後6時半** 場所 草志舎(阪急西宮北口駅から徒歩3分)

参加費 1,500円(飲み物、食べ物の持ち寄り大歓迎!)

年のはじめににぎやかに食べたり飲んだりしゃべったりして楽しくすごしましょう。日頃すれちがいの多い会員同士が顔をあわせるいい機会です。どんどんご参加ください。

参加ご希望の方は1月6日までにご連絡ください。

歴史的建築物研究会～甲子園を歩く

1月の歴史的建築物研究会は西宮市の甲子園地区を歩きます。東の帝国ホテルと並び称された旧甲子園ホテル、和洋折衷の日本家屋の姿がよく残る旧新田邸、新装なった甲子園球場など見所満載です。ぜひご参加ください。

月日 **2012年1月21日(土)**

訪問先 武庫川女子大学甲子園会館(旧甲子園ホテル)、
松山大学温山記念館(旧新田邸)、甲子園球場、ほか

参加費 1,000円(昼食代別途自己負担)

昼食 甲子園会館にて

定員 30名(定員に達ししだい締切ます)

詳細は同封の案内チラシ、あるいはホームページをごらんください。



ご報告1 東日本大震災被災者支援コンサート 11月23日(水・祝) カトリック夙川教会

すばらしいコンサートでした。冒頭から津波の映像が流されて聴衆の気持ちを一気にひきつけ、美しい歌声と心のこもった語りで慰めと励ましのコンサートとなりました。涙が止まらなかったという感想が何人もから寄せられました。参加者は213名、会場はほぼ満員となり、被災者も一家族が来ていただきました。皆さん、チケットの販売ありがとうございました。収益のなかから森祐理さんの東日本での被災者支援活動に対して寄付をいたしました。



【コラム】

ヴォーリス六甲山荘の公開を終えて

清水 順子

2011年の六甲山荘の公開が終わりました。4月2日(土)から11月20日(日)までの公開日数は74日、ほかに園遊会を2回、写生会、長瀬信博イラスト作品展、コンサートなどを開催し、来場者は1031名でした。

喫茶も順調でした。コーヒーは豆から挽く本格派、紅茶はケニヤ・ティー、ケーキは会員手作りのりんごケーキと、こだわりの内容です。ランチは啜さんのコウノトリの郷の米を使ってスタッフが腕をふるいました。多いときは20名をこえる注文もありましたが、我々がスタッフは泰然自若、人数にあわせたメニューを工夫し、見事に対応しました。石窯ピザの登場も忘れてはなりません。窯は昨年夏に完成し、ワーキングホリデーの時に披露目しましたが、一般のお客さまに提供するの今年からでした。その苦労談は10月号に掲載された窯焼き職人谷本さんの原稿に詳しくご紹介します。苦労の甲斐あって夏の園遊会や写生会ではおいしい石窯ピザを自信を持って提供できるようになりました。緑ゆたかな山荘の庭でできたてのおいしいピザを味わう・・・山荘の豊かな時間を満喫できる時です。

スタッフは延べ232名が受付、ガイド、喫茶、販売を手分けして対応しました。メンテナンス作業は11月までで延べ23名が従事しました。皆さん、お忙しい中を、また遠方からも駆けつけてくださいました。スタッフの一人一人の誠意ある対応に、お客さまはいつも満足して帰っていかれました。

今年の活動の一番の話題は東日本大震災の被災者支援の活動です。3月1日以降アメニティ2000協会は被災者を支援するためにいろいろな活動していますが、そのうちいくつかを六甲山荘で行いました。8月の写生会・自然観察会には神戸に避難しておられる被災者が家族連れで参加されました。8月の園遊会で宮沢賢治の詩を朗読して下さった菅原哲夫さんも、9月の園遊会でオルゴールを演奏して下さった工藤正登さんも、ご自身も東北で支援活動をなさっておられ、その活動の一環として出演して下さいました。また8月ははじめには被災した家族に山荘で宿泊していただきました。心静かなひとときを過ごすことができたこと、喜んでいただけ、迎えた私たちも大変うれしかったです。

これからしばらく山荘は冬休みです。スタッフとして公開を支えて下さった皆さんにあらためてお礼申し上げます。ありがとうございました、お疲れ様でした。また来年よろしくお願ひいたします。

予告の予告

英国ナショナル・トラストの旅～スコットランド

第6回英国のナショナル・トラスト～スコットランドを訪ねる旅について少し詳しくご紹介しましょう。

ナショナル・トラストのプロパティを中心にまわりますが、グラスゴーでは近代建築の鬼才マッキントッシュの設計したスクール・オブ・アートを訪問します。かの映画「ハリー・ポッター」に登場する石橋を汽車ジャコバイト号に乗って渡りましょう。ネス湖は船で遊覧します(ネッシーに会えるかどうかはお楽しみ)。スコッチウイスキーの博物館も忘れてはなりません。最後には古都エジンバラで自由時間もたっぷりとりまわります。スコットランドの歴史を語る古城や美しい自然など見所満載の旅です。

詳しくはアメニティ便り正月号でご案内しますが、この日取りをぜひカレンダーにチェックしてください。

月日 **2012年6月10日～19日(7泊9日)**

参加費 会員 397,000円 一般 407,000円 成田発は1万円プラス



ブロディー城 (NT)

ご報告2 ヴォーリス六甲山荘大掃除&打ち上げ 11月25日(金)

8ヶ月におよぶ一般公開を終了して、大掃除をしました。屋根に登って積もった落ち葉を掃下し、樋を掃除し、通路や庭の落ち葉を掃除しました。屋内では窓ガラスを磨き、ベッドのマットレスを片付けるなど、冬ごもりの準備ができました。そのあと暖炉に火を入れ、持ち寄りの料理でワインをいただきながら、楽しいおしゃべりを楽しみました。皆さん、お疲れ様でした。



大募集～六甲山荘のメンテナンス・スタッフ!!

六甲山荘は冬ごもりにはいりましたが、来場者のいないこの時期は修理作業のかき入れ時です。月に1～2回のペースで行います。そこで作業をして下さる方は募集いたします。メンテナンスといっても誰にでもできる作業ですので、ぜひご参加ください。また温かいお昼ごはんを作ってお下さる炊事班も募集しています。

作業の日は決まっていますが、日があえば参加できるという方はご連絡ください。

◇おしゃべりアラカルト◇◆◇

「てづくり工房ほりだし市」素敵でした！

村山 日南子

先ず、改めて草志社の建物の素晴らしさに感動しました。おしゃれな街の民家の自由な伸びやかさと落ち着きのある建物。いいですね。

門からもう品物がお出迎え。玄関で履き物を脱いで、いいですね。まあ、何と賑やかですこと、手作りの品々と共にお手伝いの方々、品物を覗き込む方々、建物のせいでしょうか、全てが現実離れた世界に入り込んだようで、素敵でした。

並んだ品々も、丹精込めて時間をかけて作られた素敵なものばかり、ゆったりと丁寧なご対応、布を触るのが大好きな私は、一つ一つ触感を楽しみながら、お手間のかかっている品々を分けて頂きました。どれも、私の小さな宝物になりました。そして、何よりこの建物と皆さんの雰囲気

に似合っていると思ったのが、「大阪のモダンライフ」とい

うご本、著者さん自らがお越しになっているなんて、嬉しくてサインして頂きました。お若いのによくぞ、このようなテーマの本を書いて下さいました。地域は違っても私どもの父母の若い頃のモダンライフの中身を知ることができるといいご本と感謝して楽しく読ませていただいています。

できうれば、今後とも市民の力での歴史的に大事なものと文化の保存、活用とともに、言わずもがなですが、農林漁業へ思いを一層寄せて頂き、被災地の方々共々、皆さんと一緒に心豊かな社会を築いていきましょう。素敵な1日でした。



ご報告3 歴史的建築物研究会～芦屋山手地区、六麓荘 12月3日(土)

芦屋山手地区は屈指の住宅街、戦前の建築はあまり残っていませんが、坂道を昇り降りしながら、意匠をこらした個人住宅を楽しみました。坂道をデザインにとりこんだM邸の塀、蔵、洋館は見事でした。午後は六麓荘へのぼり、住民の川口さんから六麓荘の開発の歴史、見所など懇切なお話を伺い、そのあと自由散策となりました。わらぶき屋根の門のある古い和館があるかと思えば、ヨーロッパの宮殿のような洋館もあり、いずれも広い敷地を自在に使った贅沢な邸ばかり。東洋一の住宅地をコンセプトに開発されたという面目躍如でした。



六麓荘の和館

《お薦めの本》

阿川 弘之著 「お早く御乗車ねがいます」

小山 雄治

毎日の通勤時間で、往復1時間は確保出来ます。全てではないですがそこを読書の時間に充てています。飽きがこないように自分の興味のある分野のなかから文庫本を選定しています。松本清張、内田康夫、西村京太郎、最近では東野圭吾などミステリーが中心です。この本は新刊文庫コーナーで偶然見つけて思わず手にしたものです。

著者は日本の小説家で現在90歳、阿川佐和子氏(タレント・エッセイスト)の父でもあります。「山本五十六」「井上成美」など海軍提督ものが代表作ですが、残念ながら氏の小説は読んだことがなく、タイトルだけで購入しました。他にも読んだ鉄道関連の本は沢山ありますが一味違いますので《お薦めの本》とさせていただきます。

この本は昭和33年に刊行した鉄道エッセイ集で、特急「かもめ」試乗記、急行「銀河」にせ車掌体験記、外国へ向かう貨物船での瀬戸内海までの国内旅行記など旅行好きな方であれば大変楽しく読める本です。また登場する列車の愛称は「かもめ」「つばめ」「はと」など乗ったことがなくても一度は聞いたことのある懐かしい名前ばかりです。また、松本清張の「点と線」に登場する列車名も登場し、鉄道とミステリーの相性の良さにも感激します。

旅行といえば、新幹線や航空機利用が当たり前になり、夜行列車を利用したくてもほとんど廃止され、「旅情」という言葉は今や死語になってしまいました。せめて本の中で記憶を甦らせノスタルジアにひたって「旅情」を味わっていただきたいと思います。お若い方にはチンプンカンプンかもしれませんが。(中公文庫)

<次回は上田浩さんをお願いします>

六甲山荘だより

11月20日(火)をもって今年の一般公開は終了しました。今年は寒さの訪れが遅く、電気ストーブも出番が少なかったようです。

メンテナンス班も忙しく、駐車場の門柱の立て替え、勝手口そばの壁のひび割れ修理、管理人室側の流しの補修などさまざまな修理と、立木の剪定に活躍しています。

12月1日には業者と一緒に水道の水抜きをしました。水道管が冬の寒さで破裂しないように行う必須の作業です。これでいよいよ山荘は冬ごもりにはいります。またこの日兵庫県のヘリテージ・マネージャーが山荘の調査に来られました。



東日本大震災被災者支援コンサート



六甲山荘大掃除・屋根 掃除前↑ 掃除後↓

